

## 農林水産省 フードテック研究会（第5回） 議事要旨

日時：令和2年6月19日（金）10時～12時

場所：ウェブ会議

出席者：食品企業、ベンチャー企業、研究機関、関係省庁等から約220名が参加（農林水産省を含む）。

第5回では、テーマごとに7つのグループに分かれて、意見交換を行った。

### 意見交換で出された主な意見（①～⑦のテーマ別）

- ① 未来の食の姿について（2050年の食の姿としてどのようなものを思い描くか。その実現のために何が必要か。）
  - ・食を通じた体験の幅が広がるほか、食べる自分側のコントロールもできるようになるのではないか。例えば、VRを活用して味覚の感じ方を変えたり、食を通じて疾病や若さをコントロールするなどできると良い。
  - ・テクノロジーを活用して、世界の食料不足の解決に貢献できる食品など、食の選択肢を増やせると良い。
  - ・発酵食品などの伝統食を保護したり、テクノロジーを活用して水産資源の減少を防ぐことなどにより、食の選択肢を減らさないようにすると良い。
  - ・環境保護に配慮した食のあり方であるべきだ。
- ② タンパク質危機の定量化について（将来の世界のタンパク質危機について、一般の人にも分かりやすいように定量化してはどうか。どのように定量化すると伝わりやすいか。）
  - ・誰に対して、どのスケール感で伝えるかを明確にすると良い。
  - ・タンパク質自給率の概念があると分かりやすい。
  - ・考えられるシナリオ別に、食卓がどうなるかという観点での可視化をすると良い。
  - ・国際機関から提示されている数字の意味を消費者視点で分かりやすく伝える必要がある。
- ③ 社会受容、消費者理解について（フードテックが生活に取り入れられるよう、どのような取組が必要か。）
  - ・試食会などの消費者参加型イベントを実施すると良い。
  - ・フードテック関連の取組や商品に共通して使えるキーワードやラベルのようなものがあると消費者の意識を育めるのではないか。
  - ・信頼性の高い情報発信元からの発信を増やしていくと良い。
  - ・海外消費者にも目を向けたブランディング、情報発信をすると良い。

- ④ 新興技術ガバナンスについて（産業振興としての技術ロードマップの取組と技術の安全性や適切な利用を促す規制などのルール形成の取組を連携させていくためにどのようなことが必要か。）
- ・技術の監視（規制）と振興をバランス良く進める必要。
  - ・他国の動向を見据えたルール作りが必要。
  - ・技術マッピングにより、どのような技術があるのか現状を把握することが重要。基礎研究から実装までシームレスに繋がられるよう、各省庁の取組が必要。
  - ・政府の戦略の中にフードテックをしっかりと位置付けると良いのではないか。
  - ・今後、技術ガバナンスについて誰がどのような役割を担うのかを考えていく必要。
  - ・官の技術マッピング（現状認識）を提示し、産・学から情報・意見を出して議論を進めて官民協議会のマッピングを示し、その後、新興技術を守る（貿易投資環境）、育てる（支援策等）、生かす（実装、民間との連携）というように議論を展開すると良い。
- ⑤ 昆虫テクノロジーについて（協調領域はどこで、その中で優先して解決すべき課題は何か）
- ・昆虫を含んだ食品のアレルギー表示についてルールが必要。
  - ・ブランド化など、昆虫が食品として認められるよう消費者理解を進めることが必要。食品業界に限らず国全体で取り組む必要。
  - ・規制・規格については昆虫食や昆虫を飼料とした畜水産物の輸出も見据え、海外の状況も踏まえて検討する必要。
  - ・他のタンパク質を代替するだけでなく、機能性など昆虫でしか得られない価値にも着目する必要。
  - ・昆虫を飼料としたり、その昆虫を育てるための餌として廃棄物を処理する際の法規制のあり方を議論する必要。
  - ・民間企業に率先して取り組んでもらうための法整備・資金面での優遇などが必要。
- ⑥ 水産養殖について（協調領域はどこで、その中で優先して解決すべき課題は何か）
- ・種苗については、アカデミアで研究する余地が大きいですが、法的に保護されていない面が課題。
  - ・低コストの代替タンパクなど、飼料については1社で進めるのは難しく、協調して進めたい。
  - ・効率的な給餌やモニタリングするIoTの技術、インフラ整備など、生育技術については協調して進める余地が大きい。

- ・閉鎖循環式養殖などでメーカーと協力できる点を見いだせると思うので、今後も研究会等で情報交換を続けたい。
- ・将来の世界のタンパク質需給の状況を踏まえた日本の水産養殖の立ち位置をよく議論する必要がある。

⑦ 代替肉について（協調領域はどこで、その中で優先して解決すべき課題は何か）

- ・代替肉に関するキーワードが乱立しているので、うまくまとめて普及に役立てる必要。
- ・リピーターを生むためには価格の低減と食味の向上が課題。
- ・他分野と比べて代替肉には規制が少なく販売しやすいのがメリットだが、日本のメーカーが海外で活躍できていない要因があるのでは。
- ・ベジタリアン・ビーガン等向けのイメージ戦略が必要ではないか。
- ・ベジタリアン等以外へのマーケット戦略も重要で、マーケットを広げられればコストも低減できる。

以上